

①⑨ 日本国特許庁 (JP)

①⑩ 特許出願公開

①⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—74884

⑤⑪ Int. Cl.³
B 66 B 11/02
7/06

識別記号

庁内整理番号
7502—3F
B 7502—3F

④③ 公開 昭和59年(1984)4月27日

発明の数 2
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑤④ 展望用エレベータ

②① 特 願 昭57—183317

②② 出 願 昭57(1982)10月19日

②③ 発 明 者 国井和司

稲沢市菱町1番地三菱電機株式

会社稲沢製作所内

②④ 出 願 人 三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目2
番3号

②⑤ 代 理 人 弁理士 葛野信一 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

展望用エレベータ

2. 特許請求の範囲

(1) 建物の外壁に昇降路を設け、この昇降路に沿ってガイドレールを立設し、主索に結合されたかごとつり合おもりを上記ガイドレールに沿って昇降させるようにしたものにおいて、上記かごの上記建物側に配置されて上記かごを支持しその側部が上記かごの間口よりも側方へ張り出して形成されたかごわくと、このかごわくの側方及び上記昇降路の側方を屋外から遮へいする遮へい壁を備えたことを特徴とする展望用エレベータ。

(2) 建物の外壁に昇降路を設け、この昇降路に沿ってガイドレールを立設し、主索に結合されたかごとつり合おもりを上記ガイドレールに沿って昇降させるようにしたものにおいて、上記かごの上記建物側に配置されて上記かごを支持しその側部が上記かごの間口よりも側方へ張り出すと共に、その上下部が上記かごの上下端部よりも引込んで

形成されたかごわくと、このかごわくの側方及び上記昇降路の側方を屋外から遮へいする遮へい壁を備えたことを特徴とする展望用エレベータ。

3. 発明の詳細な説明

この発明は展望用エレベータの改良に関するものである。

近年、建物の外壁にかごを配置し、このかごを昇降させてかご内から外部が展望できるようにした展望用エレベータが多用されている。

しかし、このエレベータでは、昇降路に配置されるつり合おもり、ガイドレール、主索、移動ケーブル等が外部から見られ、著しく美観を損ねている。

この発明は上記不具合を改良するもので、かごを支持するかごわくをかごの建物側に配置し、このかごわくの側方及び昇降路の側方を屋外から遮へいすることにより、外部から見られても美観を損ねることのない展望用エレベータを提供することを目的とする。

以下、第1図及び第2図によりこの発明の一実施

施例を説明する。

図中、(1)は建物壁、(2)は建物の階床、(3)～(6)は建物の外壁に設けられた昇降路、(6)は階床(2)のエレベータ乗場出入口に設けられた乗場戸、(7)は昇降路(3)から屋外へ突出したかど、(8)はかど(7)の屋外側三方に設けられたガラス窓、(9)、(10)はそれぞれかど(7)の上下に設けられそれぞれ上方及び下方に張り出した外被、(11)はかど(7)の床、(12)はかど(7)の出入口に設けられたかど戸、(13)はロ字状に形成されてかど(7)の建物側(かど戸(12)に近い位置)に配置されかど(7)を支持し、かつその側部がかど(7)の間口Aよりも側方へ張り出したかどわく、(14)はかどわく(13)の上部に2個枢着されたつり車、(15)はつり車(14)に巻き掛けられ2対1にロービングされた主索、(16)はかどわく(13)の側部に枢着された3個のガイドローラ、(17)は端部がかど(7)の両側部と間隙を隔てて位置し、建物壁(1)に沿って配置された遮へい壁、(18)は昇降路(3)内に収納され建物壁(1)の一部に固着され鉛直方向に立設されその頂面及び両側面でガイドローラ(16)を転動させることにより

かど(7)の昇降を案内するガイドレール、(19)はかどわく(13)の下部に固着され昇降路(3)、(6)内に収納されたケーブル支持具、(20)はケーブル支持具(20)に支持されかど(7)と機械室(図示しない)の間で電力及び信号の授受を行う移動ケーブル、(21)は昇降路(4)内に収納され上記機械室に設置された巻上機(図示しない)の駆動歯車を經由した主索(15)が結合されたつり台おもり、(22)は昇降路(4)内に収納され建物壁(1)の一部に固着され鉛直方向に立設されつり台おもり(21)の昇降を案内するガイドレール、(23)は建物壁(1)の一部に枢着され昇降路(3)に通じる開口部を開閉する点検用扉である。(24)は同じく昇降路(6)に対応する点検用扉である。

すなわち、かどわく(13)はかど(7)の出入口に近い位置に設けられ、その側部はかど(7)の間口Aよりも側方へ張り出し、この部分にガイドローラ(16)、かど戸(12)の駆動装置(乗場戸(6)も連動して駆動する)、非常止め装置(図示しない)等が配置されている。これらは遮へい壁(17)に遮へいされているので、屋外からは見えない。また、かどわく(13)の

上部及び下部は、かど(7)の外被(9)、(10)よりも引込んだ位置にある。そして、つり車(14)の一部はそれぞれ遮へい壁(17)に遮へいされているので、つり車(14)の外周から上記機掛室へ立ち上がる主索(15)は屋外からは見えない。また、ガイドレール(18)、移動ケーブル(20)及びつり台おもり(21)も、それぞれ遮へい壁(17)に遮へいされているので、屋外からは見えないことは言うまでもない。

必要に応じ、点検用扉(23)、(24)を開けば、昇降路(3)、(6)内の保守及び点検が可能である。

以上説明したとおりこの発明では、かどを建物の外壁に配置し、このかどを支持するかどわくをかどの建物側に配置し、このかどわくの側方及び昇降路の側方を屋外から遮へいしたので、昇降路に配置される部材が外部に露出することがなく、外部から見られても美観を損わない展望用エレベータを構成することができる。

また、かどわくの上下部をかどの上下端部よりも引込んで形成したので、かどわく上下部に装着された部材を、外部から見えないようにして、美

観を害しないようにすることができる。

4. 図面の簡単な説明

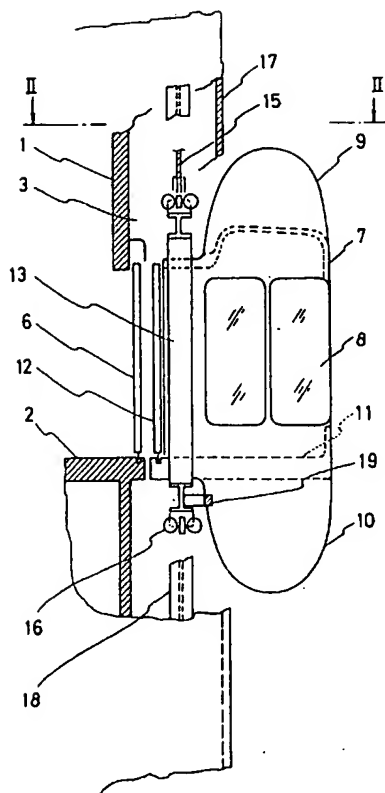
第1図はこの発明による展望用エレベータの一実施例を示す一部破断側面図、第2図は第1図のII-II線断面図である。

図において、(3)～(6)…エレベータ昇降路、(7)…かど、(13)…かどわく、(14)…つり車、(15)…主索、(16)…ガイドローラ、(17)…遮へい壁、(18)…ガイドレール、(21)…つり台おもり、(23)…ガイドレール。

なお、図中同一符号は同一部分を示す。

代理人 島 野 信 一 (外1名)

第 1 図



第 2 図

